

スマホ利用者のライフスタイル研究 I

—スマホ利用者の利用意識による分類とその特性—

○小島誠也（NTT ドコモ モバイル社会研究所），飽戸弘（東京大学名誉教授）

キーワード：スマートフォン，ライフスタイル，SNS

1. 背景

スマートフォン（以下、スマホ）が普及し、今やスマホ比率は94%に達している[1]。スマホとの付き合い方は多様化しており、スマホを有効活用できている人が存在する一方で、長時間使用によるスマホ依存や、どのように使えばよいかわからず利活用できていないといった問題が生じている[2][3]。本報告では、スマホ利用者の利用意識に着目し、スマホとの付き合い方の類型化とそれぞれの特徴の分析を行うことで、スマホとよい付き合い方ができている人の特徴を明らかにする。なお、調査概要については本報告の末尾に記載する。

2. 分析

スマホ利用意識に関する9設問の因子分析を実施（表1）。析出した3因子に基づきクラスタ分析（k-means法）を実施し5クラスタに分類（表2）。各クラスタの所属サンプルの特徴について、基本属性やICT利活用状況などとの関係について比較・分析を実施。

3. 結果

得られた5クラスタについて性年代で比較すると、使いすぎは若年女性が多く、無関心は高年男性が多かった。また、適切利用は年齢の有意差がみられなかった。知人友人との交流を行っている割合が高いのは使いすぎと適切利用であった。利用時間については、非リアル志向と使いすぎ、適切利用の3クラスタがともにスマホを1日4時間以上利用する割合が高かった。サービス利用については、利用時間の長い3クラスタが多種のサービスを使う一方で、無駄遣いは情報検索やゲームの割合が高いのみであった。SNS利用では、非リアル志向と使いすぎが毎日1時間以上利用する割合が高いのに対し、適切利用は毎日1時間未満の割合が高い傾向が見られた。

4. 結論

スマホとの付き合い方の特徴を分析した結果、スマホを適切に利用できていると考える人は、年齢によらず、スマホで多種多様なサービスを活用しており利用時間こそ長いものの、SNSに凝りすぎることなくリアルな対人交流を行っている傾向がみられた。

表1 スマホ利用意識に関する因子分析結果

設問	因子		
	活用	非リアル志向	使いすぎ
スマートフォンは自分の生活を豊かにしている	.84	.11	.14
スマートフォンを利用することは、自分のためになる	.79	.12	.07
スマートフォンは自分にとってなくてはならない	.63	.14	.32
直接会って話すより、スマホでのコミュニケーションの方が楽しい	.09	.87	.09
直接会って話すより、スマホでのコミュニケーションの方が気持ちが伝わる	.06	.78	.06
直接会って話すより、スマホでのコミュニケーションの方が気が楽だ	.23	.61	.16
スマートフォンの利用時間を減らしたほうが良いと思っている	.11	.03	.74
スマートフォンに振り回されていると感ずることがある	.08	.12	.65
スマートフォンを使っていると時間を忘れる	.36	.17	.59
寄与率(%)			
21.4 20.3 16.5			

（主因子法、Kaiser の正規化を伴うバリマックス法）

表2 スマホ利用意識に関するクラスタ

因子	クラスタ				
	非リアル志向	使いすぎ	適正使用	無駄遣い	無関心
活用	0.10	0.79	1.23	<u>-0.50</u>	<u>-0.48</u>
非リアル志向	1.28	<u>-0.81</u>	-0.18	-0.22	<u>-0.32</u>
使いすぎ	0.22	0.85	<u>-0.65</u>	0.56	<u>-0.79</u>
構成比 (%)	22	14	11	24	30
N数	1362	882	666	1512	1850
男女比 (男:女) (%)	48:52	34:66	53:47	45:55	55:45
年代比 (若:中:高) (%)	43:34:23	54:31:15	35:32:34	32: 41:26	11:33: 56

調査概要

調査時期：2022年2月 調査方法：Web調査

調査対象：全国の15～79歳の男女

標本抽出法：QUOTA SAMPLING。性別・年齢（5歳刻み）・都道府県のセグメントで日本の人口分布に比例して割付けスマホ所有者を調査。

調査結果からスマホ所有者比率に比例して再割付けを実施。

有効回答数：6,272

引用文献

[1]NTT ドコモ モバイル社会研究所 (2022). スマートフォン比率 94% に：2010 年は約 4% ここ 10 年でいっきに普及
<https://www.moba-ken.jp/project/others/ownership20220414.html>
(2022 年 4 月 14 日)

[2]館農勝 (2019). インターネット依存の新しいかたち—スマートフォン依存 (スマホ依存) — 精神神経学雑誌, 121(7), 549-555.

[3]内閣府 (2021). 情報通信機器の利活用に関する世論調査
https://survey.govt-online.go.jp/hutai/r02/r02-it_kikig.pdf (2021 年 1 月 29 日)